

はじめに

子ども同士でトラブル 「けんかのないクラス」ではなく

今までのトラブル解決法



昼休み、ボールをどちらが使うかで2人がもめています。昔の教室では、こういうトラブルが教室で起きても、自分たちで解決できていました。誰かが両方の言い分を聞き、お互いが納得できるように収めていました。

しかし最近、子どもたちはこういう場面で見ても見ぬふりをするが増えています。止めに入っても、「けんか両成敗」「じゃんけん」など、後味の悪いものになってしまう場合が多いようです。

上のマンガの例では、偶然通りかかった先輩が、「けんか両成敗」で無理やり収めてしまっています。これでは、その場は収まっても、不満は残り、また違う形でトラブルが起こってしまいます。そういうトラブルが積み重なって、子どもたちにとって、クラスが居心地の良くないものになってしまうのです。

解決できるクラスをめざそう

「話し合いで解決」を目標に！

これからのトラブル解決法



上の例では、先輩は、頭ごなしに解決していません。「話し合いのルール」を提示して、お互いで解決できるように仕向けています。難しいようですが、時間をかけて丁寧に指導すれば、小学校3年生ぐらいから中・高校生まで、意外なほど上手に、自分たちで解決できるようになります。

誰かが強引に解決するのではなく、自分たちで、話し合いで解決できるように学んでいくことは、トラブル解決に非常に効果的です。そのために、身につけたいスキルや知識があります。本書では、それを身につけるのに必要な事柄を全10時間の指導計画にまとめ、指導用ビデオ、指導案、指導用シート、理論・解説編を用意しています。

トラブルやけんかは、クラスにとって絶好の指導の場です。さあ、子どもを信じて、ピア・メディエーションにチャレンジしましょう！